

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

所在	東京都千代田区神田和泉町 1 番地
園名	千代田区立いずみこども園

1. 活動のテーマ

<テーマ>

身近な生き物との関わり

<テーマの設定理由>

本園に隣接する公園は、木々や花など自然が豊かである。それに伴い、虫や鳥などの生き物も生息している。季節ごとに変化する虫や鳥の生体に触れることで、自然の変化や生き物の不思議さなどを感じ、興味関心を高めるため。

2. 活動スケジュール

5月8日 自然体験活動①（春の自然物や生き物と出会う）
7月10日 自然体験活動②（夏の自然物や生き物と出会う）
10月30日 自然体験活動③（秋の自然物や生き物と出会う）
2月13日 自然体験活動④（冬の自然物や生き物と出会う）→3月4日に変更

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

場所：和泉公園（いずみこども園に隣接する公園）
準備物：見つけた生き物を観察するかごや、自然物を入れるお散歩バック

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

学級ごとに和泉公園に行き、プロ・ナチュラリストの佐々木洋先生と一緒に和泉公園内を探索して、自然物や生き物を見つけたり、見つけた自然物や生き物についての話を佐々木先生から聞いたりする。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

○自然体験活動①（5月8日）

講師であるプロ・ナチュラリストの佐々木洋先生と一緒に学年ごとに和泉公園を探索した。春の和泉公園は自然物や生き物がたくさんあり、ダンゴムシ、アリ、テントウムシなどの生き物を探したり、咲いている花や木の実を見つけて佐々木先生に質問したりしながら活動を楽しんだ。途中、ミミズのうんちを見つけ、触ったり匂いを嗅いだりと、五感を使って触れ合う姿が見られた。

○自然体験活動②（7月10日）

暑さが心配だったが、朝一番の涼しい時間に実施した。春は元気いっぱい土の中にいたミミズが、夏になると地面で渴いている姿に子どもたちは興味津々で、「これなに？」と講師の先生に質問する姿が見られた。また、夏ならではの生き物の「セミ」の穴を見つけ、大喜びの様子。「セミいるかな？」と木の上を見上げたり、穴の中をのぞいたりする姿があった。

○自然体験活動③（10月30日）

秋の和泉公園は、コナラやクヌギのドングリや桜の木の落ち葉など様々な自然物があり、それらを拾ったり、気付いたことを保育者や講師の先生に伝えたりしていた。講師の先生が「これ、何だと思う？」と大きな芋虫のフンを見せてくれた。「まだ乾いていないから近くにいないかもしれない！」と子どもたちとあたりを見渡すと、近くの木の上に大きな芋虫がおり、「いた！」「すごい！」と大興奮で観察した。「スズメガ」という蛾の幼虫であることを教えていただき、興味津々の様子だった。

○自然体験活動④（3月4日）

朝から雨が降っていたため、園内で講師の先生が用意した虫や生き物に関する写真を見ながら話を聞いたり、クイズに答えたりしながら楽しんだ。講師の先生が用意した写真の多くは近隣の和泉公園で撮られたもので、「近くにいるんだ！」と興味津々の様子だった。自然体験活動の後に、「和泉公園で虫を探しに行きたい！」と言ったり、園庭にある花壇をのぞいたりする子どもがおり、生き物や植物に対する興味・関心がとても高まった。



5. 振り返り

〈振り返りによって得た先生の気付き〉

和泉公園は園の近くにある公園であるため、普段の保育の中でも親しんでいる。普段の保育に加えて、自然体験活動で公園内の植物や生き物に目を向け、親しむ機会を意図的に作ったことにより、園内で虫探しをしたり、和泉公園に遊びに行った時に、落ちている木の実や落ち葉を使って焚火ごっこやままごとをしたりする姿があり、より身近な植物や生き物への興味・関心が高まったと感じる。